

私のさし芽の方法(ポット挿し)

A 準備するもの

- ① ポット(私は3.5インチ≒7cmを使用)
- ② 径20数mmの筒っぽ(長さ12cm位)
- ③ さし穂を浸しておくコップ
- ④ オキシベロン(200倍希釈)
- ⑤ HB101、リキダス等の活力剤(千倍)
- ⑥ ルートン(発根剤)
- ⑦ カッター(刃先を消毒)
- ⑧ 硬めの歯ブラシ
- ⑨ 穂を挿すために穴を開ける棒(数ミリφ)
- ⑩ (まな)板
- ⑪ 赤玉土細粒(2mmと5mm程度)
- ⑫ 鹿沼土微粉(小石等を取り除き、すり鉢で粉にしたもの)
- ⑬ 鹿沼土細粒(5mm程度のもの)
- ⑭ 竹炭少々(発根促進に効果ありそう)
- ⑮ 育苗箱
- ⑯ ⑫に被せる種まきカバー(カインズにはある。なとり屋にあるかも?)
- ⑰ 新聞紙
- ⑱ すだれ(ダイソーにある)

B さし穂の先に着ける、ルートン、ゲル状の溶液、鹿沼粉の3種類を作る(容器x3必要)

容器① ルートン

容器② 鹿沼微粉に竹炭を少し入れ、水でゲル状になる様良くこねる

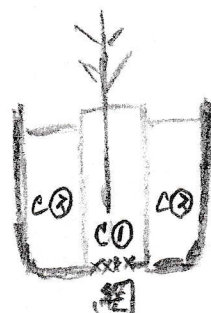
容器③ 鹿沼微粉

C ポットに入れる用土を作る

- ① 中央に入れる用土: 赤玉土2mm粒x5、鹿沼土細粒x3、クentanx2をよく混ぜる
- ② 周りに入れる用土: 赤玉土5mm粒x5、腐葉土x5、クentanx2をよく混ぜる

D さし芽ポットの準備

- ① ポットの底穴に鉢底ネットを置き、クentan数ミリを置く
- ② A②の筒を中央に置き、C①を注ぐ
- ③ この回りにC②を入れ、筒を抜く



E さし芽手順

- ① さし穂を長めに切り一昼夜水に透ける
- ② (まな)板の上に挿し穂を置き、消毒した清潔なカッターで茎を切る(葉は4、5枚-長さは随意)
- ③-1 茎の先端(私は1cm程度)にルートンを付ける
- ③-2 そのあと、ゲル状の溶液に浸ける
- ③-3 最後に、鹿沼土の微粉をまぶす
- ④ ③の処理をしたさし穂を、新聞紙等に寝かせ、30分ほど茎の先端を乾かす(この時、菊銘とさし芽日を書いた名札を置いておく<重要>)
- ⑤ Cのポット中央に穴を開け穂を挿す
- ⑥ さし穂のポットを育苗箱に並べる
上から水をたっぷりかける。以後、10日間位は水やりなし
- ⑦ 育苗箱を新聞紙2枚程で被う
- ⑧ その上にすだれを被せ、日陰に置く
- ⑨ 翌日から翌々日に新聞紙をとる。(もちろん、すだれは被せる)
- ⑩ 10日位して、土が乾いていたら水やり
- ⑪ 2週間位で発根すると思うが、私は途中で、ポットから用土ごと抜いてみて、根が十分に回っているものから、鉢上げしているので、平均3週間位は掛けていますが、発根していれば
早めに鉢上げした方がいいか、先輩諸氏のご意見をお伺いしたいと思っています。

以上です、参考になれば幸いです。